

Catch the eye 2014年11月

2014/11/3 文化の日、散歩
(月) 祝



2014/11/6 朝のゴールデンタイム
(木)

あれよあれよと時間がすぎていく。「その年になると、瞬き一回で一年が過ぎますよ」と言う人あり。たしかに。昨年11月福山へ行ったのがつい先日のような。明日はもう立冬でもあるし。

この時期、春と合わせて睡眠にはよい季節で、実際、よく眠る。眠って見るのが夢。この夢、時々妙にリアルな場合がある。経験的に朝方に見る夢がそうだと気づいた。

例えば午前3時頃に目がさめて、その後また眠り、朝起きるまでの、時間的には4時半から5時すぎぐらいの間。目が覚めてあまりにリアルな夢に驚くことしばしば。正夢か、何かの暗示かと拡大解釈したりする。

でも、そうではなくて、「午前中は頭がクリア」というその極みの時間帯だからかと思った。過日、長年朝の新聞配達をしている人から配達時によくいいアイデアが浮かぶと聞いたものだから。

実際、朝早くに思考作業をするとスイスイと進みやすい。早朝一時的に脳が大回転するようになっているのではないか。それが夢になったり、起きていれば豊富な着想になったり。

どうせなら夢よりもアイデアの方が意味があるから、やはり「早起きは三文の徳」。

2014/11/11
(火)

遠夜

今日届いたメールに「今年は秋が長い」と書いてやった。それもそのはず、旧暦ではいま閏九月中、今日は閏九月一九日。22日に閏九月が明け、十月に入る。この日は「小雪」でもある。紅葉も見頃に入る。ちなみに今夜の月の名は、「寝待月」。漢字が映像をはなつ。

昨日初めて見た漢字がある。本町の北御堂の前を通った時、布の大きな横幕に日付の後に書いてあった「遠夜」。さっそく調べて、なんだ、ちゃんと言葉があったのかと思った。忌日の前夜のこと。法事をその遠夜でやっているのに、どうして、この言葉を知らなかったのだろう。

何より見たことがない。たまたまその機会がなかったのか、一般的にも知られていないのか、その辺がよくわからない。まだ誰にもこのことを話していないので、会った人にこれから聞いてみよう。認識の程度をさぐってみるタチである。

2014/11/15
(土)

結びの章

寒くなった。ビルの床は冷たい。ヒーターを出した。古いビルだから暖房は自前。それがさいわい。エアコンの暖房が苦手。暖房器具を出す季節になり、清水寺の夜間拝観も始った。2014年もクライマックスへ。

そのクライマックスに区切りをつけ、新年から新しい職場で働くことにしたという友人あり。他にも、仕事を辞めて次の進路を考え中という知人あり。年末目前のこの時期は、そういう季節でもある。

ここ数日に3人の起業家を話す機会があった。いずれも30代の男女。話がよくわかる、よく通じる。社会の変化を自分なりの目線でとらえて、着想したビジネスのあり方。

人は既存の定義をあてはめて注目するが、本人たちにはあまり意味なし。そういう人たちが社会の一線に出る時代の節目になってきた。来年は2015年、1995年から20年。序章と本章が終わり、結びへ章へ。

2014/11/14
(金)

御堂筋の北御堂

午前中に北浜で起業家の個別相談を終え、昼食場所を探すので、西へ歩き御堂筋へ。



2014/11/15
(土)

中之島散歩

天満橋である映画会に参加する途中に散歩



2014/11/18
(火)

「高倉健」

今しがた知った、「高倉健」死去のニュース。えっ、なんで?!、つい先日もCMがテレビで流れていたのに。少々病院をうたがう。

先日立冬のリーズレーターに書いた『青年の憂い、熟年の開眼、老年の哀歓』。この時頭に浮かべた老年は、85才と91才の知人。83歳はまだまだ元気な年齢。心残りの最期ではなかったか。

ネットニュースに掲載されている写真の中に紫のシャツを着たタキシード姿あり。先週土曜15日の午後、中之島バラ園で撮った紫のバラ。花言葉は、「誇り、気品、上品、王座、尊敬」。



2014/11/18
(火)

帰り道

グランフロント、夕陽の影絵



2014/11/20 2014年紅葉、今年
(木) は京北へ



2014/11/21 人を想う
(金)

よい天気の日だった。昨日の京都駅、改札を出る前からすごい人だった。毎年のことなので、これもまた風物詩。この三連休は、想像するだけで、京都市内には近づきたくない感じ。ちょっと時間を遅らせて、北山のフウの木には会いに行こう。

一度は行こうと思いつつ、そう簡単に行けないと感じているところがある。沖縄だ。同じことをまさか、佐藤さんも思っているとは・・・。先日の知事選の時、番組の中でそう話していた。沖縄は一度もまだ行ったことがない、というのも、「遊びで、そう気安く行くところではないような感じがして」。

沖縄の人からすると、とりあえず、どうぞどうぞ一度来て見て、ということに違いない。そんな風を感じている人もいるんだ、意外に思うかもしれない。佐藤さんももし行くとすれば、まずは何か自分なりの儀式をすませた上で、遊ぶなら遊ぶ。

高倉健さんのいう、人を想う。特定の誰かだけでなく、縁もゆかりもないけど、何か懸命に生きた・生きる人々を尊ぶ気持ち。それは大切にしなければ。

2014/11/22 知人に誘われ、奈良散歩
(土)



2014/11/29 水平エレベーター
(土) なんだかヘンな気象。先週末からずっと暖かい。今日は朝から雨。急に強く降って、さっとやんで、陽射しが出て、また雲って雨が降る。空気は生暖かく、コートがじゃまになる。でも来週は気温急降下の予報、師走ムードを上げそう。

上げるといえば、人を上げ下げするエレベーター、昨日の夕刊に載った記事が興味深い。ドイツの会社がケーブルなしのエレベーターを開発したとか。もちろん世界初。上下だけでなく、横にも移動できると書いてあって、とっさに『鉄腕アトム』の絵が頭に浮かんだ。

このエレベーター、日本が先に開発することはできなかったのか。技術的には可能なはず。ネットでちょっと調べてみると、ケーブルなしで電力伝送する技術はTDKが今年6月に発表していた。用途開発で先を越されたということか。

上下左右に動くエレベーターといい、最近よく目にする人工知能の進化といい、わたしたちの生活空間は、ほんの10年後でさえ、かつての夢物語を現実のものにしていそう。『我々はどこへ行くのだろう』、坂村健さんが日経の連載記事最終回で結んだ言葉。

2008年2月5日「デジタル文明の行方」ーデジタル化の未来一。坂村さんにそんな風に書かれたら、わたしなどには到底想像できない。ゴーギャンも描いた、『我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか』。この世さきの世を想う人の目は時空をこえる。